



# 東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

## 運動部活動の地域移行施策が顧問教員の指導観に与える影響:移行期を目前に控えた中堅期の顧問教員へのインタビュー調査から

メタデータ	<p>言語: Japanese</p> <p>出版者: 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科</p> <p>公開日: 2024-05-22</p> <p>キーワード (Ja): 運動部活動, 地域移行施策, 顧問教員, 指導観, 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ, ETYP: 教育関連論文, STYP: 高等学校, SSUB: 音楽, SGRD: 高2</p> <p>キーワード (En): Extracurricular club activity “Bukatsudo” , Transitional Strategy, Mid-Career Level Teachers, Instructional Beliefs, Modified-Grounded Theory Approach</p> <p>作成者: 高木, 宏, 石井, 幸司, 鈴木, 直樹</p> <p>メールアドレス:</p> <p>所属: 東京学芸大学, 宇都宮大学, 東京学芸大学</p>
URL	<p><a href="https://doi.org/10.50889/0002000455">https://doi.org/10.50889/0002000455</a></p>

## 運動部活動の地域移行施策が 顧問教員の指導観に与える影響

—— 移行期を目前に控えた中堅期の顧問教員へのインタビュー調査から ——

高木 宏\*・石井 幸司\*\*・鈴木 直樹\*\*\*

本研究の目的は、運動部活動の顧問教員は、計画された運動部活動の地域移行施策を目前に控える中で、役割意識や指導観にどのような影響を及ぼしていくのか、そのプロセスを明らかにすることである。そこで、運動部活動の顧問教員12名を対象として、半構造化インタビューを実施した。得られたデータは修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチにより分析をした。

分析の結果、顧問教員の指導観は<初任期から中堅期にかけて変遷した指導観>の過程で【時代背景による部活指導のあり方の変化】に対応し【社会的相互作用を大切にしたいという運動部活動への願い】を醸成していった。これから始まる地域移行施策に対して、その移行期の開始が目前に迫る中で、<教育価値の喪失><実行への懸念><働き方改革への期待>といったパラドキシカルな認識の揺らぎから《地域移行施策に対する認識》

が形成されていた。顧問教員は、この認識によって<指導観の探索行動>が促され、【教員としてブレない指導観の再認識】【運動部活動は子どもの為のものである事の再認識】【思い描く地域移行後の指導方針】【地域間連携の必要感】の概念が導かれた。

---

### Key words

運動部活動, 地域移行施策, 顧問教員, 指導観, 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ

---

\*東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 健康・スポーツ系教育講座

\*\*宇都宮大学

\*\*\*東京学芸大学